

令和7年度 研究推進計画

1 学校教育目標

夢や目標をもち、主体的に学び続ける児童の育成

2 研究概要

(1)研究主題

自立した学び手の育成(二年目)
～単元内自由進度学習と一斉学習を行き来する授業づくりを通して～

・令和6年度 単元内自由進度学習の単元開発
★令和7年度 単元内自由進度学習と一斉学習を行き来する授業づくり
・令和8年度 令和6年度と令和7年度を受けて「甲山学びメソッド」の完成

(2)主題設定の理由

I 今日の教育課題から

近年、生産年齢人口の減少や、絶え間ない技術革新により社会構造が大きく変化しており、予測困難な時代を迎えようとしている。これからの未来の担い手である子供たちには、様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して多様な情報の中から、情報を取捨選択し、新たな価値につなげて課題を解決していくことが求められている。

II 育成したい資質・能力から

本校の教育目標である「夢や目標をもち、主体的に学び続ける児童の育成」を具現化するために、「アイデンティティ」「自発性」「コミュニケーション能力」を育てたい資質・能力として設定した。

全ての教育活動を通して、夢や目標、自分のよさ、自分の得意などについて自分の言葉で表現できる「アイデンティティ」を確立させる。また、主体的に学び続ける児童を育成するために、自ら課題を発見し、学習の進捗管理をしながら自らの学びを調整していく「自発性」と、他者と協働的に学びを深めていくための「コミュニケーション能力」の育成を図っていく。

III 児童の実態から

昨年度、広島県教育委員会の事業「特別支援教育の考え方を生かした個別最適な学び推進プロジェクト」(以下、特プロ)を受け、資質・能力「アイデンティティ」「自発性」「コミュニケーション能力」を育成するために、単元内自由進度学習の単元開発を通して、児童が主体的に学び続ける授業づくりに取り組んできた。

昨年度の評価指標による調査では次のような結果が見られた。

	検証の視点	検証の時期	達成目標
①	全国学力学習状況調査、標準学力調査における学年平均が全国平均を上回る割合	4月(全国学力学習状況調査)100% 1月(標準学力調査) 72.3%	全学年・教科 100%
②	資質・能力に関する児童実態調査の肯定的評価の割合	7月 85.4% 12月 84.7% 3月 97.4%	90%以上
③	児童の姿についての教師の意識調査の肯定的評価の割合	7月 4.3 12月 4.1 3月 4.5	5段階評価における平均4以上

②③の結果から、単元内自由進度学習に係る学ぶ姿は、児童も教師も達成目標を越えていること

が分かる。児童が主体的に学び続ける学び方として単元内自由進度学習が、効果があることを示している。一方で①の結果から、学力の定着については目標を下回ったことが分かる。この原因として、単元内自由進度学習以外の年間9割程度の一斉学習の指導の在り方に課題がみられる。

IV 特プロのまとめから

令和6年度「特別支援教育の考え方を生かした個別最適な学び推進プロジェクト」のまとめより

成果	課題
○主体的に学ぶ姿 ○計画的に学ぶ力 ○学習意欲 ○教材研究の深まり ○特別支援学級の児童も共に学べる	●準備に時間がかかる ●環境づくりが大変 ●学習プリント ●見取り ●協働的な学び

令和7年度に向けて

単元内自由進度学習	一斉学習
・単元内自由進度学習を行う目的を全教員で理解し、令和6年度で使用した教材や資料をブラッシュアップし、児童の実態・教師の得意不得意に合ったもので構築する。	・一斉学習でも学習計画表を使い、児童が単元の見通しを持って学習を進められるようにする。 ・一斉学習でも学習方法の選択肢を与え、全ての児童が学習できるようにする。 *学習方法の選択肢の例・・・タブレットと紙媒体、教科書と動画、難易度の選択 等 ・一斉学習でも学習環境を整え、児童が実体験を持って学んだり、何度も繰り返し学べる環境を準備したりする。

以上のことから、今年度は、広島県教育委員会の特プロのフォローアップ事業を受け、単元内自由進度学習と一斉学習を行き来する授業づくりについて実践を積み重ねていく。

3 研究仮説

単元内自由進度学習と、選択肢と自己決定のある一斉学習を行き来する授業づくりをすれば、児童はどの授業においても主体的に学び続けるだろう。

4 具体的構想

(1)安心して学習に取り組むための学習土台づくり

- ① 心理的安全の保たれた学習集団づくり(その上で児童と合意のある学習規律の創造)
- ② ICT 機器の効果的な活用
- ③ 教師の教材研究力の向上

(2)単元内自由進度学習(個別最適な学びとゆるやかな協働のある授業スタイル)

どんどん学習を進めたい児童やこつこつとスモールステップで学習を進めたい児童が自分のペースで学べるように環境を整える。

- ①学びの進捗を調整する力を付ける計画設定
- ②学習内容の順序や学習形態(個人で、友達と、グループで)、学習方法(紙・パソコン等)の選択

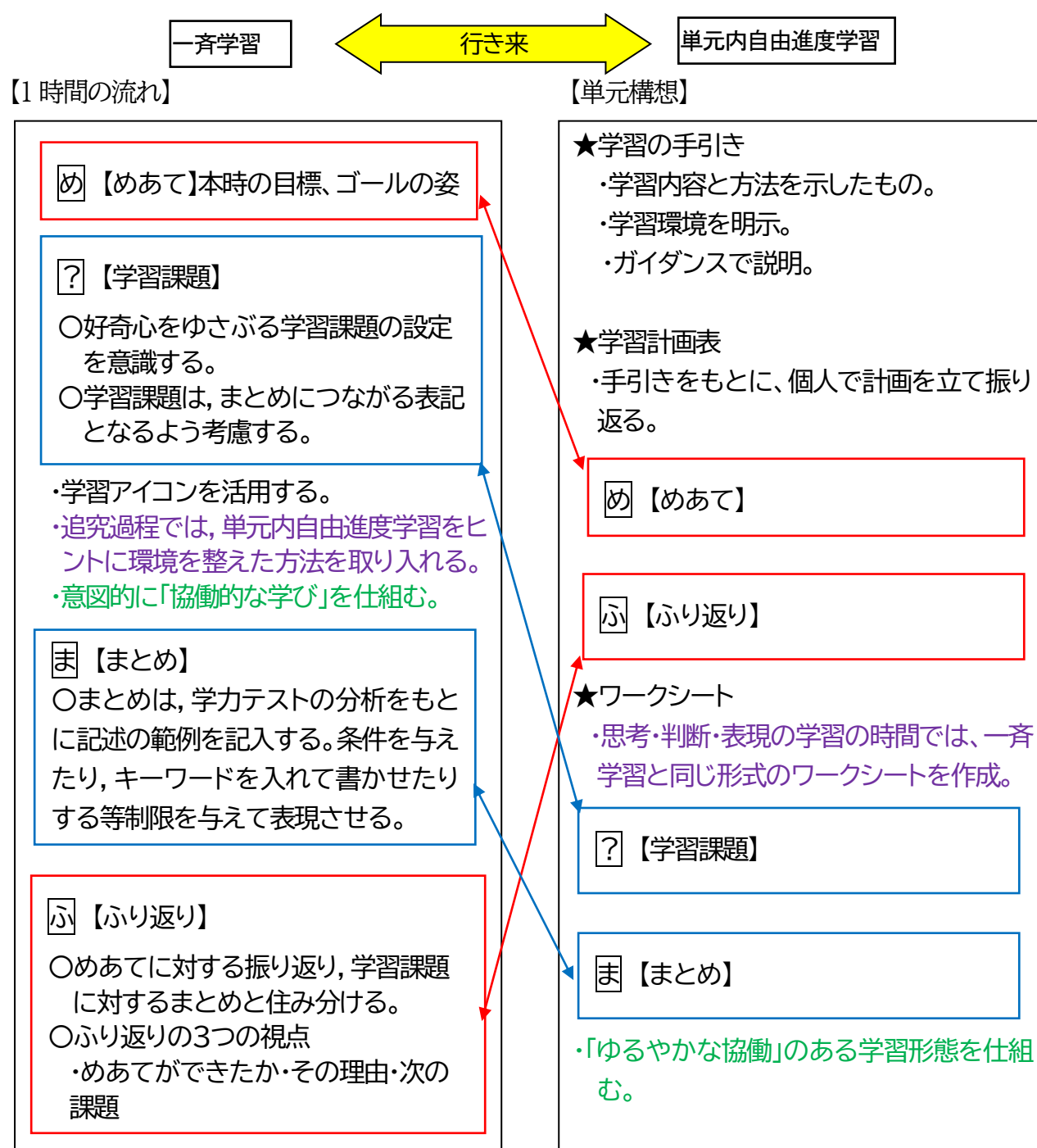
(3)特別支援教育の視点を生かした一斉学習(意図的な協働的な学びを設定した授業スタイル)

選択肢と自己決定のある一斉学習を取り入れることで、児童が自分の得意を生かし主体的に学ぶことにつなげる。また、指導者が、めあて・学習課題・まとめ・振り返りを意識し、協働的な学びのある授業づくりをすることで、学校課題である思考力・表現力を意図的に高める。

① Google Classroom・学習アイコン・思考ツールの活用

②「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」を明確にした授業

5 授業モデル



6 評価について

評価項目		評価内容	評価指標	備考
(1)授業評価	①児童評価	a)よくわかった(理解度) b)自分のペースで学習できた (満足度) c)またやりたい(主体性)	肯定的評価 90%以上	Ⅲ② (継続)
	②指導者評価	学びの変革授業評価表	4段階評価の 平均3以上	Ⅲ③ (改善)
(2)定期的な質問紙評価		ScTN(4・7・12月調査) a)他の人と一緒に学ぶとき, 自 分の得意を生かしたり, 苦手 を補ってもらったりしながら 学習を進めることができる。 (アイデンティティ)・・・問⑰ b)学んでいて解決できるか分 からない問いや課題に出合っ たとき, 挑戦したり失敗した りすることを楽しめる。 (自発性)・・・問⑱ c)授業では, 他の人の考えや意 見を自分の学びに生かしてい る。(コミュニケーション 力)・・・問⑧	肯定的評価 80%以上	新規
(3)学力調査による評価		全国学力・学習状況調査(4月) 標準学力調査(1月)	全国平均越え 90%以上	Ⅲ① (継続)